

■ 調査目的:「健康と子ども」に関するアンケート調査

■ 調査対象:子ども／親／祖父母世代の比較を行うため下記割付でサンプルを回収

		小学生			中学生		
		1-2年生	3-4年生	5-6年生	1年生	2年生	3年生
父親	男児	103	103	103	52	52	52
	女児	103	103	103	52	52	52
母親	男児	103	103	103	52	52	52
	女児	103	103	103	52	52	52

1860ss

	55-64歳	65-74歳
祖父	52	52
祖母	52	52

208ss

※父親／母親…同居している長子の学齢によって割付(30-44歳)

※祖父母…小学生もしくは中学生の孫がいる祖父母の年齢によって割付  
(同居有無不問、半年に1回以上会う)

■ 調査地域:全国

■ 調査方法:インターネットリサーチ

■ 調査時期:2012年6月7日(木)~2012年6月8日(金)

# 1. 夏休みにやりたい遊びは「花火」「旅行」「プール」「お祭り」。予算は一人当たり 20,400 円

子どもが、夏休みにやりたい遊びの1位は「花火」(73.8%)でした。2位は「旅行」(66.0%)で、以下、「プール」(63.7%)、「お祭り」(61.6%)、「レジャー施設(遊園地、テーマパーク含む)に行く」(58.2%)と続きます。昨年調査に比べると「旅行」の増加(60.0%→66.0%)が目立ちました。

また、親世代の「子どもの頃の夏休みにしていた遊び」を聞くと、トップ3は「花火」(78.9%)、「プール」(69.9%)、「お祭り」(66.5%)で子どもと共通していますが、4位「海水浴」(63.8%)、5位「ラジオ体操」(62.3%)で子どもと異なる結果となりました。【グラフ1】

親世代に今夏のレジャーについて聞くと、「レジャーに行く」と答えた人は8割近くで、昨年に比べ若干増加(76.0%→79.2%)しています。今年の「レジャー予算」は、「昨年と同じくらい」が約半数(53.8%)を占めました。増やす予定(9.5%→11.8%)がやや増え、平均金額も一人当たり20,270円から20,400円と130円アップしています。【グラフ2】

グラフ1) 夏休みにやりたい遊び(子ども)/夏休みにしていた遊び(親)(トップ5のみ)

	夏休みにやりたい遊び(子ども)		夏休みにしていた遊び(親)	
1位	花火	73.8%	花火	78.9%
2位	旅行	66.0%	プール	69.9%
3位	プール	63.7%	お祭り	66.5%
4位	お祭り	61.6%	海水浴	63.8%
5位	レジャー施設に行く	58.2%	ラジオ体操	62.3%

グラフ2) 夏休みのレジャー予算(一人当たり)

	n数	大幅に(5割以上)増やす予定	(4~5割)増やす予定	少し(2~3割)増やす予定	昨年と同じくらいの予定(0~1割の増減)	少し(2~3割)減らす予定	(4~5割)減らす予定	大幅に(5割以上)減らす予定	今年の夏はレジャーに行かない予定	増やす計	減らす計	平均金額
		3.4%	7.2%	53.8%	8.6%	3.1%	20.8%					
今回・世代別	親	1860	3.4%	7.2%	53.8%	8.6%	3.1%	20.8%		11.8%	13.6%	¥20,400
	父親	930	3.5%	7.1%	53.5%	8.6%	3.0%	21.5%		11.9%	13.0%	¥18,417
	母親	930	3.3%	7.3%	54.0%	8.6%	2.5%	3.1%	20.1%		11.7%	¥22,348

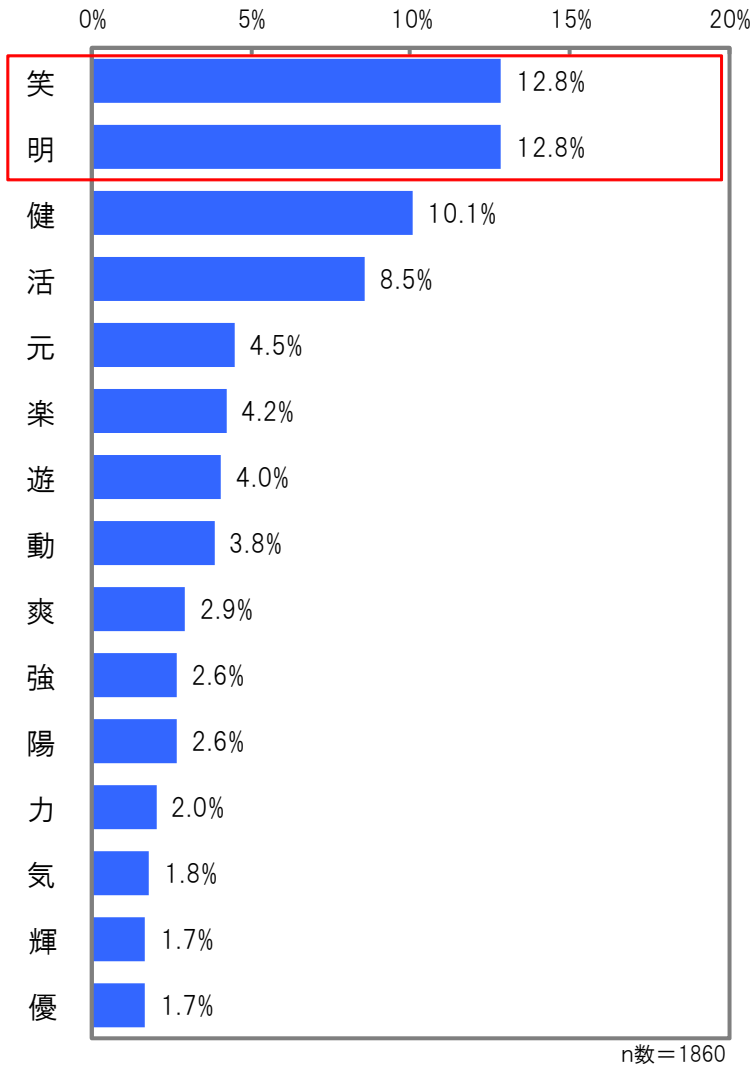
※2%未満は非表示  
 ※増やす計:「大幅に(5割以上)増やす予定」+「(4~5割)増やす予定」+「少し(2~3割)増やす予定」  
 ※減らす計:「少し(2~3割)減らす予定」+「(4~5割)減らす予定」+「大幅に(5割以上)減らす予定」

n数		レジャーに行く人	増やす計	減らす計	平均金額	
今回	親	1860	79.2%	11.8%	13.6%	¥20,400
前回	親	1860	76.0%	9.5%	15.0%	¥20,270
差分(今回-前回)			3.2pt	2.4pt	-1.4pt	¥130

## 2. 健康な子どものイメージを表す漢字は「笑」

健康な子どものイメージを漢字1文字で表現してもらったところ、健康を直接連想させる「健」や「活」、「元」を抑えて、「笑」が約13%でトップでした。同率で「明」、3位は「健」(10.1%)でした。トップ3は、10%を超えています。以下、「活」、「元」、「楽」、「遊」と続きます。よく笑っている子どもは、健康的な明るいイメージを想起させるようです。【グラフ3】

グラフ3) 健康な子どものイメージを表す漢字 (上位15位)



### 3. 「からだを動かす遊び」の時間は週に平均 3 時間 24 分、昨年調査より 18 分減少

子どもがからだを動かす遊びを行っている時間を聞くと、1 週間当たり平均 3 時間 24 分で、昨年より 18 分減少(1 週間で平均 3 時間 42 分→3 時間 24 分)していました。からだを動かす遊びを「行っていない」子どもは 5 人に 1 人(21.2%)で、昨年より増加傾向(「行っていない」17.6%→21.2%)です。その一方で、「テレビを見る」時間は 1 週間当たり平均 8 時間 18 分で、昨年(平均 7 時間 30 分)より 48 分増加していました。【グラフ4-A】

親世代に、遊びや運動などで子どもが体を動かす時間が足りていると思うかを聞くと、過半数(54.2%)が「運動不足」と考えており、昨年(52.7%)より「不足」と考える親が増える傾向にあります。【グラフ4-B】

親世代に、週にあとどのくらい子どもにからだを動かして欲しいか聞いたところ、平均は 1 週間当たり 4 時間 24 分で、昨年(1 週間で 4 時間 36 分)と比較すると 12 分減少しました。親の性別では、父親(1 週間であと 4 時間 54 分)と母親(1 週間であと 3 時間 48 分)では、1 時間以上の開きがある点も注目されます。父親の方が、より子どものからだを動かす時間の少なさを心配しているようです。【グラフ4-C】

グラフ4-A) 子どもの 1 週間の行動(平均時間)

n数		習字、ピアノなどの 習い事	学習塾での 勉強	地域の スポーツ チームへの 参加	運動系の 部活動・ クラブ活動	身体を 動かす遊び	テレビを見る	マンガを 読む	読書をする	新聞を読む	インターネット をする ※SNS (Facebook やTwitter 等)を除く	SNS (Facebook やTwitter 等)を使う	携帯電話・ スマートフォン を使う(通 話やメール など)	室内での遊 び(テレビ ゲーム除く)	テレビゲーム
今回	子ども 1860	1時間6分	1時間36分	1時間6分	3時間30分	3時間24分	8時間18分	2時間12分	2時間24分	24分	1時間24分	12分	36分	3時間18分	2時間42分
前回	子ども 1860	1時間18分	1時間30分	1時間	3時間18分	3時間42分	7時間30分	2時間12分	2時間18分	30分	1時間54分		42分	3時間18分	2時間48分

グラフ4-B) 子どもが遊びや運動などでからだを動かす時間は足りていると思うか

n数		足りていると思う	まあ足りていると思う	やや不足していると思う	不足していると思う	今回 不足計	前回 不足計	
今回・ 世代別	親	1860	14.0%	31.8%	33.3%	20.9%	54.2%	52.7%
	父親	930	12.0%	31.9%	34.5%	21.5%	56.0%	54.5%
	母親	930	16.0%	31.6%	32.0%	20.3%	52.4%	51.0%

グラフ4-C) 週にあとどの程度子どもにからだを動かして欲しいか

※不足していると思う人ベース		0~1時間 未満	1~2時間 未満	2~3時間 未満	3~4時間 未満	4~5時間 未満	5~6時間 未満	6~7時間 未満	7~8時間 未満	8~9時間 未満	9~10時間 未満	10時間 以上	今回 平均 (時間)	前回 平均 (時間)	
今回・ 世代別	親	1008	2.6%	16.0%	20.2%	15.2%	10.4%	9.8%	10.0%	6.2%	0.7%	2.2%	6.7%	4.4%	4.6%
	父親	521	2.1%	12.9%	15.7%	12.9%	13.1%	11.1%	11.7%	6.9%	1.0%	3.3%	9.4%	4.9%	5.0%
	母親	487	3.1%	19.3%	25.1%	17.7%	7.6%	8.4%	8.2%	5.3%	0.4%	1.0%	8.9%	3.8%	4.2%

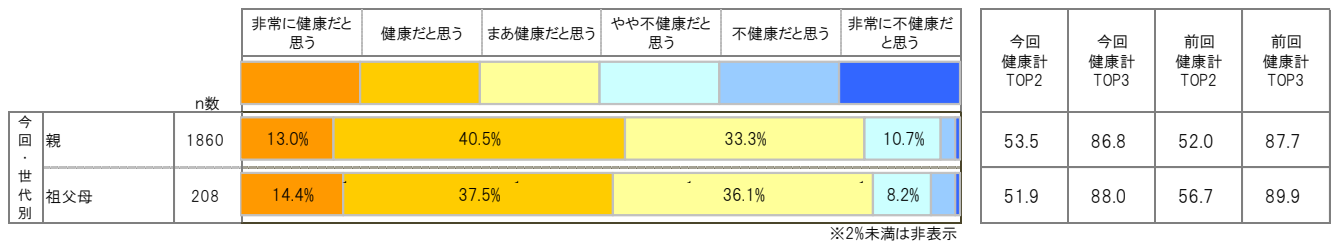
※ウェイト値: 0~1 時間未満(0 時間 30 分) 1~2 時間未満(1 時間 30 分) 2~3 時間未満(2 時間 30 分)  
 3~4 時間未満(3 時間 30 分) 4~5 時間未満(4 時間 30 分) 5~6 時間未満(5 時間 30 分)  
 6~7 時間未満(6 時間 30 分) 7~8 時間未満(7 時間 30 分) 8~9 時間未満(8 時間 30 分)  
 9~10 時間未満(9 時間 30 分) 10 時間以上(10 時間)

#### 4. 自分が子どもの頃に比べ、今の子どもが「健康だと思う」親・祖父母は 9 割弱

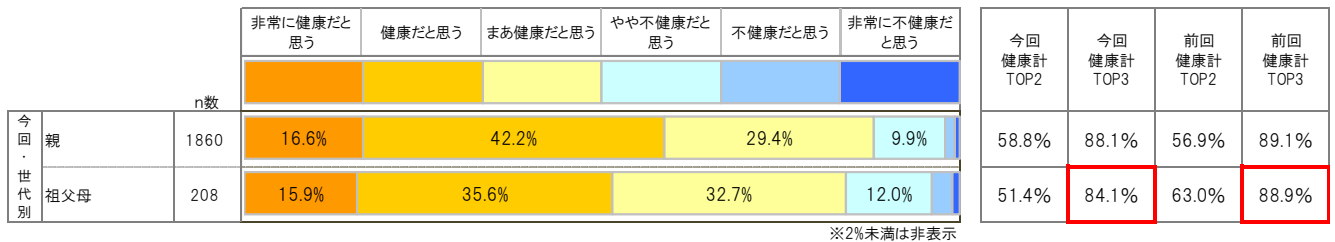
親世代と祖父母世代に、自分の子ども(孫)ぐらいの年齢だったときと比較して今の子ども(孫)が心身ともに健康かどうかを聞きました。その結果、心の健康、からだの健康それぞれに「非常に健康だと思う」「健康だと思う」「まあ健康だと思う」を合わせると、9割近くが自分の子ども時代よりも、今の子ども(孫)のほうが心もからだも「健康だと思う」と答えています。

昨年調査と比較すると「健康だと思う」と答えた割合はほぼ同程度ですが、祖父母世代においては孫の「からだの健康」が「健康だと思う」と答えた人が、昨年より 5 ポイント近く減少しています(88.9%→84.1%)。【グラフ5-A,グラフ5-B】

グラフ5-A) 心の健康状態(親からみた子ども/祖父母からみた孫)



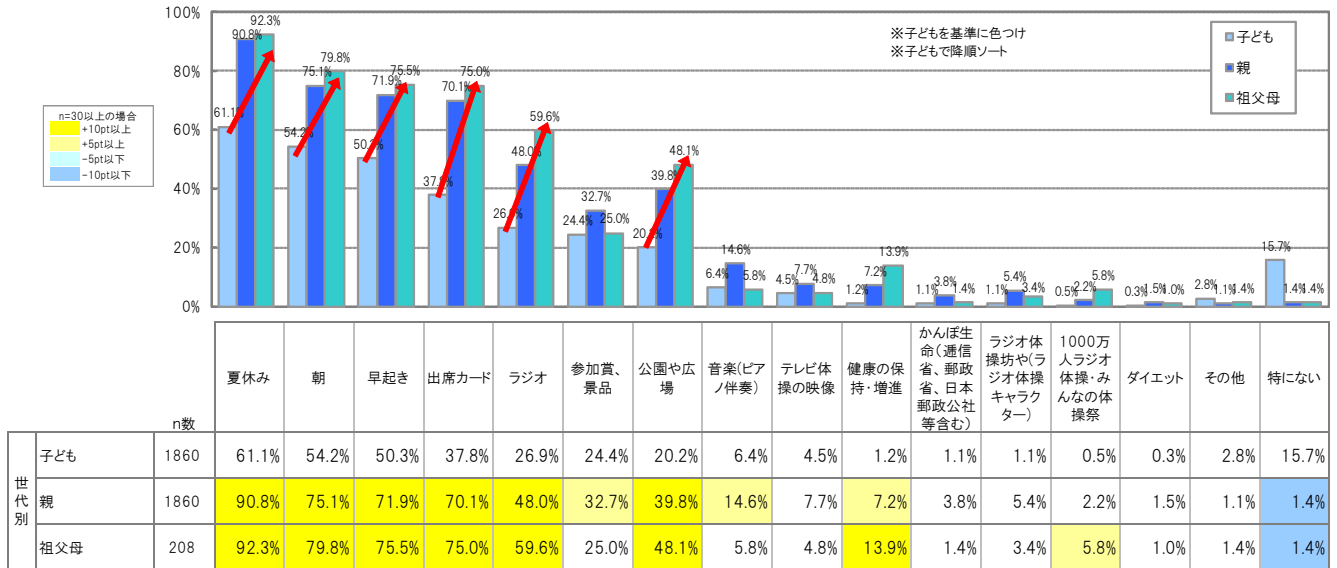
グラフ5-B) からだの健康状態(親からみた子ども/祖父母からみた孫)



## 5. ラジオ体操のイメージは 1 位「夏休み」2 位「朝」3 位「早起き」

ラジオ体操と聞いてどのようなことを思い浮かべるかを聞くと、親世代と祖父母世代の 9 割以上（親 90.8%、祖父母 92.3%）が「夏休み」と答えています。子どもでは、6 割（61.1%）が「夏休み」と答えました。3 世代すべてにおいて、思い浮かぶトップ 3 は「夏休み」「朝」「早起き」で一致しています。ただし、子ども、親世代、祖父母世代と、年代が上がるにつれて各項目の回答率が増えており、年代が高いほどラジオ体操へのイメージが強いことが伺えます。【グラフ 6】

グラフ 6) ラジオ体操のイメージ



## 6. 子どもが出場したい夏季五輪競技は「サッカー」「競泳」「テニス」

ロンドン五輪で「メダルへの期待」が高いのは、3 世代を通じて「女子サッカー」で、子どもの 4 割近く（36.0%）、親世代の半数弱（46.4%）、祖父母世代の 6 割強（62.5%）が期待しています。期待度の高いその他の競技は世代ごとに異なり、子どもは「男子サッカー」「男子競泳」「女子バレーボール」と続きますが、親・祖父母世代は「男子競泳」「男子体操」「女子柔道」が上位とやや傾向が異なります。世代ごとに評価傾向が異なり、子どもはあらゆる競技を通じて評価が厳しく、親世代は中間、祖父母世代はあらゆる競技で期待値が高めでした。この傾向が顕著なのが「男子体操」で、祖父母世代の期待値の高さ（66.3%）が、親世代（38.0%）や子ども（11.9%）から突出しています。

出場してみたい夏季五輪競技では、子どもは「サッカー」「競泳」「テニス」、親世代は「サッカー」「バレーボール」「テニス」と、サッカーが人気種目です。最も親世代では「特になし」も 4 割（41.9%）に達し、オリンピックは親戦が興味を中心という人がかなり多いことも分かります。

親世代が子どもに出場して欲しい競技は、「サッカー」「競泳」「テニス」ですが、これは「子どもがでてみたい競技」と一致しています。なかでも「サッカー」は 4 人に 1 人（子ども：24.7%、親：25.8%）が出場してみたい（させたい）人気スポーツになっています。

メダルを期待する競技と、出場してみたい、子に出場させたい競技を比較すると、メダルへの期待では圏外の「テニス」がいずれもトップ 3 に入っています。必ずしも、メダルへの期待と出場してみたい、子に出場させたい競技は一致しないようです。【グラフ 7】

グラフ 7) メダルを期待する競技/出場してみたい競技/親が子を出場させたい競技(トップ 5 のみ)

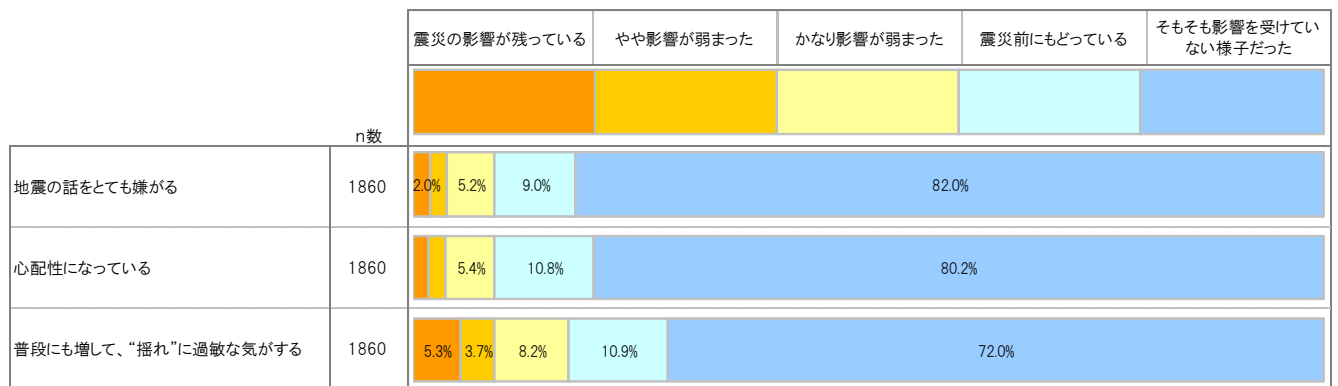
	メダルを期待する競技			出場してみたい競技		子に出場させたい競技
	子ども	親	祖父母	子ども	親	親
1 位	女子サッカー (36.0%)	女子サッカー (46.4%)	男子体操 (66.3%)	サッカー (24.7%)	サッカー (14.4%)	サッカー (25.8%)
2 位	男子サッカー (30.9%)	男子競泳 (42.3%)	女子サッカー (62.5%)	競泳 (12.3%)	バレーボール (8.3%)	競泳 (15.1%)
3 位	男子競泳 (23.3%)	男子体操 (38.0%)	男子競泳 (55.8%)	テニス (9.0%)	テニス (8.2%)	テニス (13.7%)
4 位	女子バレーボール (15.4%)	女子柔道 (31.9%)	女子柔道 (49.5%)	トランポリン (8.5%)	射撃・アーチェリー (8.1%)	バレーボール (10.4%)
5 位	男子体操 (11.9%)	男子柔道 (31.2%)	女子レスリング (47.6%)	バレーボール (7.4%)	バドミントン (7.1%)	陸上 (マラソン除く) (10.2%)

## 【ご参考】東日本大震災の影響について

東日本大震災の影響を親に聞いたところ、“揺れに過敏になっていた”子どもが3割近く(28.0%)いましたが、未だに「影響が残っている」子どもはわずか(5.3%)でした。また、“心配性になっていた”子どもも2割近く(19.8%)、“地震の話を嫌がっていた”子どもも同じく2割近く(18.0%)いましたが、未だに「影響が残っている」子どもはともに2%以下と震災の影響はかなり薄れている様子がうかがえます。【グラフ8】

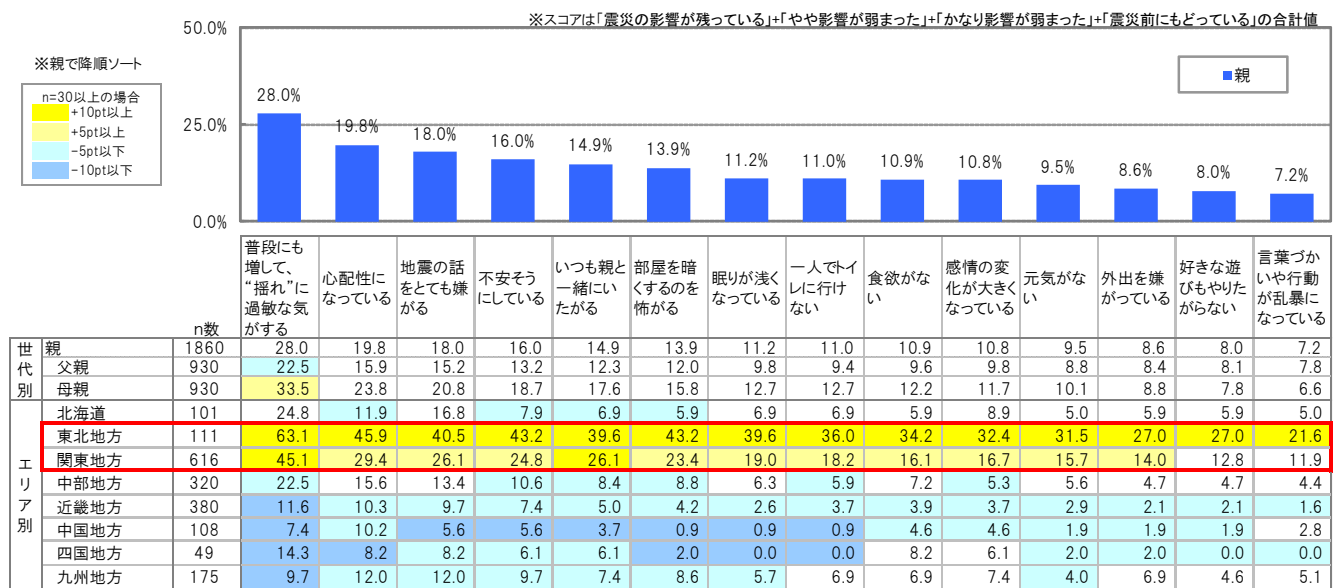
地域別ではやはり、東北地方や関東地方では影響度が高い傾向が見られますが、全体としては「時間とともに弱まった」との回答が大多数を占めています。【グラフ9】

グラフ8) 震災が子どもに与えた影響



※2%未満は非表示

グラフ9) 震災が子どもに与えた影響【弱まった・計】



※親を基準に色付け